

第4回大野市生涯学習推進計画策委員会 議事録

日時：令和3年11月4日（木）19時～21時

場所：学びの里「めいりん」2階 洋室大

1 開会

出席委員9名、欠席委員2名

2 委員長あいさつ

本日の会議が4回目になり、この後パブリックコメントを経て、第5回で最後の会議になる。毎回委員からは貴重な意見があり、また、事務局からも意見を踏まえた修正案が提出してもらえるのでありがたい。本日もよろしくお願ひしたい。

3 議事

(1) 協議事項

○生涯学習推進計画の素案について

(説明概要)

- ・表紙裏の「はじめに」は、第3回会議後に委員長に作成してもらったもの。
- ・前回指摘のあった2ページの国県市の動向を、市国県に並び替えた。
- ・市の動向に(4)大野市水循環基本計画と(5)(仮称)大野市文化財保存活用地域計画を追加した。
- ・余白の多いページにはキャラクターを表示した。
- ・9ページのその他の行政計画に、環境基本計画と水循環基本計画を追加した。生涯学習におけるスポーツの分野については、生涯学習スポーツ推進計画に定めることを記載した。
- ・11ページの生涯学習施設の利用状況は、歴史博物館と民俗資料館、イトヨの里を追加して表で示した。
- ・13ページからの取り組み状況には、環境・水循環課と職業訓練センターの事業を追加した。
- ・24ページに施策体系図を表示し、それぞれの基本方針の施策を示した。
- ・25ページは、三つの基本方針を支える情報発信と生涯学習活動の連携を図で示した。
- ・本日の会議で協議後、11月に議会と教育委員会に説明し、12月にパブリックコメントを実施する。

(質疑応答)

委員長：素案の説明の内、基本目標については第2回で仮決定という形で決め、前回第3回でも特に異論はなかった。改めて意見はないか。無ければ、どこからでも構わないのでページ番号と指摘をいただきたい。

委員：関係各課に意見を聞いたとの説明だが、具体的にどの課に照会したのか教えてほしい。

事務局：照会した課は、政策推進課、総務課、地域文化課、各公民館、防災防犯課、福祉課、健康長寿課、スポーツ推進課、環境・水循環課、産業政策課、教育総務課、歴史博物館、図書

館、こども支援課である。財政経営課や税務課、会計課、行政委員会事務局、議会事務局、消防本部には照会していない。

委員：よくまとまってきている。自分は第六次総合計画の策定に携わって、まず私たちは何ができるのか、みんなで何ができるかということがキーポイントになった。「みんなができること」というものを第六次総合計画に入れることになったが、今回の生涯学習推進計画の第4章を見ると、市民自ら行うというよりも生涯学習センターや公民館が行う形になっており、これでは私たちに何ができるのかという部分が少ない。私たちならこれができるよとか、みんなでこれをしましょとか、そういった文章が入ると良い。

委員長：確かに第六次総合計画では、「みんなができること」ということで、市民、団体、企業がそれぞれできることが掲載されているが、それと同じような形でということか。うまくまとまってきたなというところではあるが、このような独自色をもっと出せればというところもあると思うので、確かにその辺りのできることが挙げられれば良い。

委員：すごく簡単なことで良い。第六次総合計画でも、本当に簡単にできることからスタートしている。

委員：根本的に言い方、考え方を修正したほうが良いところから申し上げる。12ページのコロナ禍における施設利用の状況については、もう言わずもがなであるので、比較の対象にならない。もし比較を入れて分かりやすくしようとするなら、平成30年度と令和元年度を照合してみることはありかと思う。そうすると、平成30年度までの推移と令和元年度の数字というのはどの施設についてもほぼ横ばい状態なので、コロナ禍のことは比較の対象から外すべきである。今回のコロナについては仕方がない状況なので、あれこれする問題ではないという気がする。表現方法を少し検討いただくと良い。それから、2ページ以降の市の動向等について、文章がうまくつながっていない。あえて自分の思いとして伝えるが、例えば2ページの第六次総合計画の2段落のところ、前の文章からいきなりこういった施策を定めていますと記載されている。何がそうだったのというところが、この文章だけでは分からない。例えば「そこには」と、その前の文章を受けた続き方が望ましい。3ページの(3)については、段落が三つあるので、二つ目の「本計画の策定と合わせ」のところは「加えて」や「また」を文章の最初に付けた方が、文章の流れが良くなる。それから、4ページの文が長いので、どこかで分断して意味の通りやすい形にすべき。全庁的な文化財の保存活用への取り組みのところ、段落の前に「これは」などの言葉を入れて前文を受けたほうが良い。また、段落の2行目から文書が続いて分かりにくいので、例えば「連携・整合性を図ることが主たる狙いです」とここで1回区切り、さらに、文化財の現状と課題を踏まえ、それらの保存と活用の将来像としての基本理念を定めて、支援のあり方を明らかにするという役割を担うものにしてはどうか。それから、5ページの障害者という文言だが、これは、後に記載の場合だと、「障がいの人」の「がい」は平仮名になっている。この「害」については、今いろいろなことが検討されている。漢字の「害」を使うことがよろしくない表現とされつつある。平仮名で統一したほうが良いと思うがいかがか。

委員長：まず、12ページのコロナ禍となった令和2年度の比較について、5年間この計画があるので、注意書的に記載している気がしたが、そうではなくてただ比較として記載してい

るのか。

事務局：比較というよりは、最新の情報を載せた形にしている。表から令和2年度の状況を外して文章だけ残してはどうかとも思ったが、委員の意見は12ページの文章がいないということか。

委員：そうである。平成30年度までの状況と令和元年度の比較ならありだと思う。ただ、それがどんな意味を成すかということになるが。

委員長：そうなると、状況としては横ばいに推移しているという文言になる。

事務局：確かに、表にある前年比というのは2年度と元年度を比べているので比較した形になっている。表の右の二つ、令和2年度の状況と前年比は外した方が良いか。

委員：これは少なくとも5年間の計画であり、5年後のコロナがどうなっているか分からない。もしかすると非常に過去の話になっているかもしれない。ただ、この計画は5年を過ぎても残るので、そうすると当時はコロナで大変だったということが10年後であっても見えると思う。それを何回も触れる必要はないが、一度は触れておいても良いのではないか。

委員：この計画を見た人が、「なぜ最新の2年度の表示がないのか」と思うはずなので、平成30年までの推移と令和元年度についての比較だけは文章に入れて、令和2年度はコロナがあったので使用を制限したし、利用者が減少したと記載すれば良い。

事務局：参考のために令和2年度の数字は載せておいた方が良いか。

委員：表そのものは、そのままが良い。

委員長：令和元年度までは横ばいで推移なのか、徐々に減少していると記載するのか、これまでの状況を見てみないと分からないが、令和2年度に関しては「コロナのため減ったものとみなされる」程度の表現にするということか。

事務局：記載の仕方について、令和2年度においてはコロナ禍で施設利用を制限した、利用者数が減少したということを最後に記載することで修正する。

委員長：事務局は、令和元年度までの状況も記載しておくこと。2ページ以降の文章の繋がりについては、読みやすさということも考え、何度も読み直して修正を加えるべきである。具体的に指摘された部分を中心に修正すること。5ページの障害者の言葉について、これは国の計画の文言をそのまま使っているのではないか。

事務局：そうである。

委員長：漢字のまま書くのか、こちらで意図的に平仮名に変えるのかということだが。

事務局：漢字で違和感があるなら、平仮名の「がい」に統一しても良いと考える。

委員長：国の計画では、漢字で表記されているはずだが。

事務局：漢字で表記されている。

委員：難しい方の漢字か。

事務局：いや、この漢字（害）である。

委員長：市に決まりはないのか。引用する文章に関しては、やはり原点と同じ方が良いのではないかという気がする。

事務局：今回はその観点で記載させてもらっている。

委員長：ただ、今はこの「害」を書く違和感があるのは理解できる。

委員：あわせて32ページだが、「障害のある人でも」という書き方も「障害のある人も」にし

てはどうか。

事務局：修正する。

委員：障害の表記は平仮名で良いと思う。先ほど委員長が国の表記を踏襲することもありえるということだったが、やはり私たちが使っていて違和感あるというのが事実である。これは市の計画でもあるので平仮名が良い。

委員長：平仮名で統一する。先ほどの「みんなができること」の提案もしていただければと思う。三つの方針ごとにできることを掲げて良いし、それが難しければ一つにまとめてでも良い。気軽なもので提案いただきたい。例えば第六次総合計画であれば、「地域の活動に楽しんで参加します」や「近所で日常的な声かけを行います」という感じで、みんなできますねということが書いてある。

委員：自分が第六次総合計画の策定委員会に参加したときに、提案した「ふるさと自慢をする」という文言が採用されている。「みんなができること」は良い切り口だったが、なかなか提案が難しい。1人一つずつぐらい何か、自分の思うキャッチフレーズが挙げられたらと思うが。

委員長：事務局は何かないか。

事務局：こちらとしては「いきいきわくわく学びに挑戦します」とか「子どもたちと一緒に学びます」など。生涯学習に繋がるものが必要になる。

委員長：第六次総合計画の中であれば、例えば「大野市の広報紙、ホームページを見ます」というのはなかなか良い。こうやって情報を広げるっていうのは、提供する側も努力が必要だが、市民側の主体的な取り組みという意味で言うと、この内容を書き込みたいというところもある。

委員：表記のことで一つ聞きたい。2ページにニューノーマルという解説があるが、このSDGsという言葉が出たところで、もうすでに嫌になる人がいると思う。せっかく後ろにSDGsの項目があるので、ここにも解説のところにSDGs（持続可能な開発目標）を入れて、「5ページに記載しています」という説明があるとそのページを見てくれるのではないか。一般的な言葉にはなりつつあるが、まだあまり浸透している言葉ではないので、後ろのページをめくってくれると考える。また、キャラクターを載せるに当たって、市図書館のキャラクター「おとしょちゃん」に解説があるので、他のキャラクターにも最初に出てきたページにそれぞれ解説を入れた方が良い。ずっと大野にいる人だけではなく、新たに大野に来られる方に対しても紹介してあげる方が良い。ゆいピーは載せないのか。

事務局：ゆいピーは430年祭のキャラクターで商工会議所が所有しているので、申請書を提出して許可されれば載せることができる。

委員：子どものキャラクターがない。おとしょちゃんが子どもかなと思うが、「子どもが対象じゃない」という気がしてしまう。

委員：うぐピーなどがちょこちょこページの端っこにいるのはありだと思う。読んでいてアクセントがあった方がほんわかとする。

委員長：キャラクターというのは大事な要素であり、ところどころに配置するのはとても良い。このキャラクター達には年齢や趣味などの履歴はあるのか。そういうデータも載せられると、それだけで見る子どもも増えると思われる。背景があると絶対におもしろい。名前と年齢、

好きな食べ物ぐらいでも良い。あと、SDGsの注記は入れられるか。2ページのところで後で出てくるという表記だが。

事務局：国の動向を先に示すとこの説明書きもいらなくなるがどうか。

委員：うまく持ってきているので、5ページ参照と表記すれば良い。

委員長：米印で下の注記を見せて「5ページ参照」と表記することとする。

委員：25ページの3つの基本方針の下にあるのは、家の形なのか。情報発信、生涯学習活動の連携が入っている枠は、家の形ということか。

事務局：これは家の形ではなく、上の方針を支える土台を意味している。

委員：地域の中に家庭、学校が入っているのは分かるが、地域を出ることはないのか。囲まれていると、地域から出ることができない井の中の蛙のようなイメージがした。

委員：地域という表記がいらぬのではないか。

委員：外枠をなくした方が縛られていないので良い気がする。

委員：よく言われる概念だが、三位一体という捉え方をした時には、地域、学校、家庭というのは絡んで表現されることがあって、それから見たら地域は外せない。

委員：地域の表記は必要だが、地域という輪の中に学校などが入ると地域から出られない。

委員：この地域というのは市内全域のことを表すのか、その公民館単位のことを地域と呼んでの地域なのか。

事務局：これは全域を表している。学校や家庭と同じような丸で地域を作り、みんなをつなげて生涯学習センターを真ん中に持っていきたいという思いもある。この生涯学習センターと公民館を下に置いて、上に家庭と学校と地域があって、みんなと連携しているというイメージも考えていた。

委員長：地域、家庭、学校を同じランクで丸付けしてはどうか。確かに地域の枠に入ってしまうと狭く感じる気がする。重なっているところに虫メガネのように拡大したものを工夫して表せればと思う。

委員：地域、家庭、学校を大きな輪にして、その中に生涯学習センターと公民館の重なる部分をうまく表したものでパブリックコメントに出し、その後より良い表示があれば、次の会議で検討するのはありか。

事務局：検討して修正することは可能である。

委員：学校からこのように直接、生涯学習センターと連携することはあるのか。

事務局：数は多くないが、学校での子育て講座、かたりべの派遣、授業以外でも人材活用事業の派遣がある。連携のイメージとしては先ほどの意見を踏まえた表示に修正する。

委員：大野市のパブリックコメントの通知がLINEで来る。今は過疎地域計画がパブリックコメント中だが、それを見ると、PDFデータで60ページが出てくる。これがもったいない。生涯学習推進計画は、「はじめに」のページがとても良い。一つのファイルで計画全てを開くのではなく、目次があって、1章、2章、3章とファイルを分けて、別々に見られるような仕組みにしてくれるともう少し見やすくなる。本当に見やすいページ作りをしてほしい。これは、計画策定後のホームページでの掲載も同じである。見やすくなる工夫が必要である。

委員長：委員意見のように、ホームページでハイパーリンクなどによって求めるページに飛ぶとい

うことは実質的にできるのか。

事務局：計画をそれぞれのPDFに分けて作ることができるので、全体版や目次、章ごとのファイルにして表示することは可能だと思う。

委員長：みんなができることについては、数があれば基本方針ごとに分けることもできるが、意見が出ないのであれば最後に一つということになるが。

委員：細分化しにくいと思う。人づくり、つながりづくり、学び場づくりという三つの基本方針で、私たちができますと言ったときに、これは学ぶ場づくりなのか、それともつながりづくりなのかと分けにくいので、まとめて書いても良い。

事務局：細分化しにくいという意見だが、33ページの最後に「わたしたちができること」ということで入れるようなイメージでよいか。

委員：33ページで、全体の「私たちができること」という意味づけで書ければと思う。

委員長：「私の経験をあまねくお話しします」はどうか。「あまねく」という言葉はあまり使わないので、なんだろうと引き付けられるのではないか。

委員：「あなたのお話をたくさんしてください。しっかり聞きます。」

委員：「あなたの要望をお聞きます。」

委員：「子どもと興味のあるサークルを見に行きます。」

委員：視点を変えて1ページの冒頭だが、生涯学習とはという概念づけのところに、一人一人の市民がこうあるべきだということが書かれている。しっかりと際立たせて捉えれば、その趣旨は描かれていると言っても良い。それをそれぞれの立場で取捨選択して、みずから積極的に生涯学習に身を置く術を模索していく。そういう捉え方をすればと思う。

委員：この計画は、取り組みで「児童センターにおいて親子で参加できる講座を開催し、さまざまな体験学習や交流活動を推進します」というように、「こうしていきます」と言い切っていて、自分もそれをやれば良いという捉え方もある。「人の話を聞きます」というのも、「講習会などを開いて知識の普及に取り組みます」というのも、結局、全部自分を主語にしてこれをやってしまうということが今回の話だったのではないかと思ったが、かみ砕いた言葉も確かにあった方が良い。

委員：「私ならできます、やります」「これならできる」ということをかみ砕いた形で表せば良いと思う。

委員長：1ページで書かれていることはお手本のような内容である。具体的なところは行政の視点で書かれているので、それをより我々の言葉で出しても良いのではないかという意見である。例えば、それであれば、もう最後につけるのか、或いはキャラクターの吹き出しで書くのはどうか。キャラクターがしゃべっている体で、パッと見るぐらいの、自分たちの言葉として出すのはどうか。

委員：「これは楽しそうだね」くらいのもので良い。「これを参考にしてくださいね」という体で。行ってみたら楽しかったということは結構ある。ただやるまでのハードルをいかに低くするかというのが重要である。

委員長：何かキーワードを入れていくか。「自分ごと」「一歩踏み出そう」「気軽に」とかそういうキーワードはないか。

委員：この計画に描かれている全体像で、直接的に女性がどんどん社会進出を果たしましょうと

いう激励文のようなものがちょっと少ないような気がする。もっと社会に羽ばたいていただいて、個性を発揮してもらいたいといつも願っている。この全体を見て、この辺をもっと際立たせてほしいというものはないか。

委員：自分は仕事から帰ってきた後、家事が全部終わって夜の9時、10時となったときに、今回のこの計画の資料も次の会議までになんとか読まなければと思ったが読み切れなかった。皆さんのご意見のようにできるだけ絵やキャラクターを多く表示したり、写真を見せたりすれば、とても見やすくなる。この生涯学習に参加することが、社会のために、今後の未来のためになどの重い意味を持たせすぎるのは良くない。生涯学習に楽しく参加できる人もいれば、そういうところに一步踏み出すのにとってもパワーがいる人もいるし、それぞれの考え方もあるので、あまり重い意味を持たせすぎると逆に一步踏み出しにくい。できるだけ本当に気楽に参加できる、自分の趣味程度でも良いので参加できるぐらいの、気軽なものにした方が良い。

委員：今回、ここに「障がい者にとっても学習ができる機会を」と書いてあるが、ここに書くということは、その時点で何か差別とか区別とかしているのではないかと自分は捉えてしまう。そういう点については、先ほどの女性の話と一緒に考える。そこに載せるということはやはり意識していてなんらかの壁があるからだと思う。障がい者については、皆さんどう思われているのか聞かせていただきたい。

委員長：前回、委員会で意見があったのは、女性をあえて特化して書くのは最低限必要だという発言であった。女性側としては、現状は男女差が大きいから書いてもらわないといけないという話で、男性側としては、わざわざ分けなくても良いのではないかという意識の差があった。障がいのある方に関しても、そのような点はあるのかもしれない。今大きな差がある場合にはそれを書くことに意義があるというわけだが、その辺はいかがか。

委員：すべての障がい者の方が、「自分は健常者だ」「大丈夫だよ」と思っていれば、また、そういう世界が10年後、20年後に出来ていたら、それこそ本当に差別のない文章で良いと思うが、今はまだ「私も参加できるのだ」というような文章は必要ではないかと思う。

委員長：先ほどの「家事育児をしたらもう9時ぐらいになっていて、この計画を読む気力もなかった」という発言だが、そもそも男性は家事育児をしないからいつでも読めるけれども、女性は夜に時間もないし、翌日のことを考えるとさらに手が回らないのが現状で、そうなるパブリックコメントを出しても、おそらく同じ状況の方が多くいる。ただ、より積極的に何か書けたら良い。男性の視点と女性の視点が大きく違うということを今の発言を聞いて思う。写真や絵などが読みやすいベースになっているところだとは思う。

委員：女性がどんどんそういったところに出て行って、男性が育児家事をしていてという状況になればと思う。見方はいろいろあって、すごく難しいところである。

委員：ここにも書かれているが、いろいろな講座をセッティングすると女性高齢者の出席が際立っている。だから学ぶ意欲や好奇心旺盛な部分については、女性が男性を凌駕しているという認識で自分はある。せつかくそれなりに蓄えたものを持っているなら、やはり社会にそれを示すという機会があった方が良いということで、もうちょっと書けたらと思う。

委員：そういう方々は、子育てから解放されている人である。しかしながら、子育て世代はとても忙しい。家に帰っても子どもの宿題を見てやらないといけないし、食事を食べさせない

といけない、翌日の準備もしないといけない、となるとパブリックコメントで意見をくださいと言っても、おそらく見てもらえないのではと思う。本当に若い人に見てほしいが、結局はその人たちの目には届かないまま計画の策定が決まって、それで結局その人たちは講座を受けないし、公民館にも足を運ばないということになる。子育てが終わったぐらいでやっと何か始めようかという感じになるのが事実かとは思ふ。なお、いろいろな講座や公民館の行事に出ると、「役」を押し付けられるということもあり、それで特に女性は表に出ない。PTAにもたまに行くと言役が回ってくるから、なるべく目立たないように参加するという方も結構いらっしゃる。

教 育 長：皆さんの意見を聞いていて思うのは、各ページでいろいろなキャラクターの吹き出しで、単語でも短い言葉でも良いが、しゃべっているのを見ていたらパラパラ漫画のように読みすすんでしまったということになれば良いのではないかということ。計画の余白にキャラクターがいて、「生涯学習ってこういうことか」「この計画は5年間なんだ」など、計画文に書いてある内容をしゃべっていると、楽しく読めるのではないかと思って聞いていた。余白もなしに文章を詰めていたら読めない。それと、今の子育てされている方は参加しづらいということだが、子育て講座という取り組みもあるわけで、キャラクターが「子育て講座もやっているんだ」、「じゃあ、お父さん私たちも一緒に行こうよ」などとしゃべっていると、子育て世代へのメッセージになると思う。難しい文章を余白のキャラクターに簡単な内容でしゃべらせるのは、とても良い構成だと思って聞いていた。

事 務 局：委員の皆さんは、第1回から計画の「読みやすさ」を求められていた。これが一番大事であると思っている。

委 員：キャラクターの吹き出しだけを読んでいけば、大ざっぱではあるけれども、言いたいことが伝わったと思う。そこで興味を持ってもらって、本文を読んでもらえる。

委 員 長：例えば1ページであれば「ああ生涯学習とはこんなことか」くらいのフレーズでも良い。そのフレーズを見て、興味ある人はその上の定義を読むだろうし、看板の役割がある。それ以外のところであれば「気軽に成長しよう」という感じの文言でも、キーワードでも良い。13ページに保護者、乳幼児向けの事業があるので、「こういった親子向けの事業もやってるんだね」とキーワードを述べるキャラクターと、この計画に沿って看板の役割を示すキャラクターという感じで表示できれば良い。東京オリンピックの国のプラカードも吹き出しだったので、そういう流れになれば面白い。ここの吹き出しで入れた方が良いというものがあれば、今、意見いただいても後日メール連絡でも良い。年内では最後の会議になるが、概要版についてはどうまとめていくか。

事 務 局：参考としてふるさと教育推進計画の概要版は、家庭教育、地域教育、学校教育の分野が交わり合って結の心を育成しましょうと表示されている。

教 育 長：キャラクターがみんな集まっているとしゃべっているというように、この計画書で作ったものを概要版に集めても良い。各家庭1枚ずつお届けしたいというものである。

委 員：18ページの生涯学習フォーラムが職業訓練講座の上に記載されているが、生涯学習フォーラムは最後のイベントの締めなので、生涯学習フォーラムは下の方が良いのではないか。

事 務 局：最後に生涯学習フォーラムを記載することで修正する。やはり「わたしたちができること」をどうするかが課題である。計画を読み進めていって最後に「みんなができること」を示

すことができれば、読んでくれた皆さんが「自分はこうして行こう」と思って計画を読み終えてくれるのではないか。

委員長：表現は考えなければならないが「市の情報をつかみにいきます」や、例えば「誰もが学べる環境をみんなで作ります」くらいの言葉を入れて最後を締めるのも良い。先ほどの男性女性の話が家庭によっても人によっても考え方が違うので、あまり強くは書かずに抽象的な言葉で記載してはどうか。

事務局：計画内のキャラクターはトピック的な吹き出しを入れて読めるようにし、最後に「わたしたちができること」ということで、いくつか挙げられた案を基に形を示すこととして良いか。まとめ方については、委員長と事務局に任せていただけたらと思う。

委員長：第5回の委員会もあるので、今後、皆さんの中で良い案があれば提出してもらえば良い。今回の協議はここで終了させていただく。事務局はパブリックコメントを踏まえた計画案を第5回委員会で提示すること。概要版の案も提示すること。

(2) その他

事務局：次回、第5回委員会はパブリックコメントを取りまとめてからになるので、1月末から2月初めに開催を予定している。

委員：事務局が今回ブラッシュアップしたものを、パブリックコメントに諮るということで良いか。その後、修正した結果で会議を開くという案内が委員に送付されるということか。

事務局：今回の会議での意見を反映してパブリックコメントを実施する。次の会議前にはパブリックコメントの意見だけでも先に皆さんにお示しできればと思っている。

教育長：今月、教育委員会と議会に説明するとの話だが、それはいつ頃になるのか。例えば、教育委員会であれば、11月24日なので、それまでにまとめるということか。

事務局：パブリックコメントで示す形のものを教育委員会と議会全員協議会に説明する。

教育長：今回の会議で修正したものを委員に示さないまま教育委員会と議会に説明するのは失礼なので、修正したものを委員に示すこと。

事務局：承知した。

委員長：流れとして、事務局はまず修正案を委員に示し、チェックする期間を数日設けて意見聴取した後、教育委員会と議会に説明に入るよう事務を進めること。

4 閉会

副委員長：第1回委員会で話したが、どんなに立派な計画を作っても実行されなくては意味がないし、実行されてもそれが大野市或いは大野市民に還元されないと、これもまた意味がないと思っている。この計画を基に来年度から市の各課において、切り分けをして推進されていくが、やはりそれだけじゃなくて、先ほど市民が情報を掴みにいくという言葉があった通り、自分も一市民として、情報をつかみにいきたい。私事にはなるが、今日いろいろな意見を聞いていて、自分が行っている家事をレベルアップしようと思う。以上。